

One & Only

中原 悦夫

東京都・協立歯科
クリニックデュポワ

クラシック 歯科医療

もしもこのようなタイトルの歯科医療があるとしたら、どのようなイメージをもたれるのでしょうか。おそらく多くの方は「古典的な歯科医療？」と訳し、昔の歯科治療を思い浮かべているのではないのでしょうか。

「クラシック (classic)」は、どうしても「クラシック音楽」や「クラシックカー」と並べてイメージするため、「古典音楽」や「旧車」といった意味合いが先立つかと思います。もちろん、「古典的な」という意味があるのは間違いありません。もう少し掘り下げてみますと、“classic”の名詞形で「学級」を表す“class”は、古代ローマにおいて、課税目的から職業や財産に応じて6段階に分かれていた市民階級のうち、最上級の名称がラテン語で“classici”と呼ばれ、その後“classis”と変化し、英語の“class”になったと言われています。「高級」、「格調の高い」という意味があるのは、こういった経緯からです。

“classis”の形容詞として「最上級階級にかかわる」という意味の“classicus”が“classic”の語源で、転じて「模範的なもの」、「真面目なもの」という意味合いでも用いられるようになりました。クラシック音楽なら、「芸術性が高く」、「時代を超えて普遍的な価値をもつ音

楽」といった意味合いがもたれるようになってきたのです。従って、「クラシック」の原義は、「最高級の」あるいは「一流の」という意味において「ファーストクラス」と同じなのです。ちなみにワールド・ベースボール・クラシック (WBC) は2006年に始まった野球の世界一決定戦ですが、この新しい組織につけられた「クラシック」は、まさに「最高位の」という思いが込められています。

模範的な、一流の、あるいは普遍的な価値をもつ歯科医療とは何か。今回は、その概念をイメージしてみたいと思います。

舞台総合芸術オペラにみるクラシック

オペラといえば、『トスカ』『蝶々夫人』『カルメン』のように、今でも劇場で楽しめる作品の多くは古典と呼ばれるものです。100年を超えて存在する美術作品や上演されるオペラ作品は「芸術品」と捉えられる、つまり**1世紀を超えて初めてさまざまな芸術的価値が担保される**のです。日本語の「世紀」は30年を一区切りとした世代を表し、3世代が概ね共存していないサイクル100年を単位とする西洋の“century”の訳にあてたようです。共存しない

人類にもその価値が理解され、そして認められる作品こそ「普遍的な価値をもつ作品あるいは音楽」であると確認するのに、100年を費やす芸術性の奥深さに改めて感心します。**クラシックの「古典的な」と「一流の」という意味が一体化している**ことがわかると思います。

2013年1月31日、『三枝成彰：オペラ「KAMIKAZE－神風－」』というオペラの新作の初演がありました。100年後、この作品が『トスカ』らと並んで世界中で上演されていれば、歴史を刻んだ一日だったということです。

1. Functionality(機能性)：オペラは原案・原作、作曲、美術、演出、脚本、照明、指揮、オーケストラ、ソリスト、そして合唱と、ありとあらゆるジャンルの芸術の総合的、学際的、あるいは包括的なアプローチによって機能する舞台総合芸術です。合唱団やオーケストラを含めると出演者だけでも200人はゆうに超え、舞台裏で働く人の数は200人を超えますので、400～500人の各専門スタッフの協力によってようやく初演を迎えることができる、壮大なアプローチです。まさしく“Multi-disciplinary Approach”そのものです。

2. Aesthetically(審美性)：オペラは、ソリストの衣装、美術、照明、演出等にはすべて崇高な美しさを伴った表現が欠かせません。演出は上演ごとに変えられ、作者の意図や作曲されたときの時代背景、社会情勢を最大限に演出しながら、舞台芸術として調和のとれた美しさを与えていきます。特に舞台装飾では遠近法や黄金分割比を応用した工夫がなされ、音楽ではホールの設計を生かしてオーケストラとソリスト、並びに合唱団の最大限の音響効果と調和を醸し出せるように、指揮者

が引き出していきます。芸術と最初に結びつく要素が「審美性」に他なりません。

3. Sociality(社会性)：オペラ劇場は王侯貴族や富裕な市民の社交と娯楽の場としても発展してきました。しかし、作者の思想や哲学、あるいは当時の社会情勢を風刺するなど、人文科学的にメッセージを織り込んだ作品が多く、大衆に受ける作品は概ね悲劇が多いように思われます。前述の『KAMIKAZE』も、第2次世界大戦中の特攻隊員と残される家族との葛藤を描きつつ、その大戦の意味を問い、不条理がまかり通る時勢を風刺した悲劇的な物語として描かれています。そして今、こうして私たちがオペラを観たり平和に暮らしていけるのも、戦死された方々お一人お一人のおかげでもあるという気持ちを込め、英霊への最大級の敬意を表した作品でもあります。

このように、原作を描く作曲家には、世の中へのメッセージとしての思想が必ず備わっています。戦争体験者の年齢は90歳を超え、あと10年もすると戦争体験談を直接うかがえなくなります。戦争の悲惨さを知らない世代でも、決して過ちを繰り返すことのないように、**後世の人々の心に訴える手段として、芸術は存在意義がある**のだと思います。この作品のパンフレットに作曲家自身が、「先の大戦はいったい誰が引き起こしたのでしょうか。私は当時の国民（大衆）が起こした戦争ではないかと思っています。それを新聞やラジオなどのメディアがしており、その勢いを軍部や政治家が止められなかったために、あの戦争が起きたのだと。(中略) 私は現在の日本の社会には、あの頃の日本に通じる“空気”が流れていると感じます。(中略) ものが自由に言えない

時代に口を開く勇氣は私にはないのです。しかし、こんな私でも、言論と表現の自由がまだ保証されているいまのうちなら、何か残しておけるのではないか—そう思って書いたのが、この作品です」と寄せ、社会に対する表現者としての深いメッセージが込められています。オペラのもつ社会的意味、つまり**社会性は芸術的要素としては不可欠です。**

4. Prevention (予防性)：オペラの上演では、さまざまなリスクを回避する措置があらかじめとられます。音響への対策はもとより、暗がりにおける演者の動きや照明に対する安全性の確保、進行や舞台裏での動線、更には演出上の表現による作曲者の意図やメッセージの誤伝の回避に至るまで。また、作曲家がスコア(総楽譜)に残す音楽上の表情や、それによって伝わる曲のイメージ、織り込まれた思想についても、作曲当時の時代精神と違う100年後でさえ曲解されない完成度も時には必要です。いわゆる完成度というものには普遍であり、あらゆる点において完成度を限りなく高く調和させること自体が、芸術性を高める行為に他なりません。裏を返せば、**緻密さの追求は予防性の追求でもあるのです。**

5. Economically (経済性)：現在の日本でオペラの新作を書いて初演に辿り着くまでの総費用は億単位です。ちなみに『KAMI-KAZE』の総費用は約2億円と聞いていますが、3日間のチケット販売による興行収入は4千万円を大きく下回っています。残りの1億数千万円はすべて寄付金と協賛金で賄われています。本当によいものを作り上げようとすれば、当然お金がかかります。お金をかければかけるほどよいものができると言われ

る世界でもあるのです。しかし、観客からのチケット収入は相場観もあるために、オペラの総制作費の1/5にも満たないのが現実なのです。つまり、上演するほど経費がかかってしまう性格の興行こそ、オペラという芸術なのです。**芸術は経済活動とは一線を画す行為と誤解されがちですが、経済行為そのものがないければ芸術も生まれてこないのです。**

ちなみに、現存作曲家によるオペラの初演に巡り会える機会は滅多にありません。日本アンチエイジング歯科学会誌『華齡』(特攻隊をテーマとした愛の物語の制作過程における葛藤と苦悩のドラマに、現代に生きる私たちの役割と存在意味を見いだす、5:6-19, 2012)では、作曲家の三枝成彰氏、原作者で経営コンサルタントの堀 紘一氏、美術担当で日本画家の千住 博氏に、それぞれ本音を語っていただいていますのでご参照ください。



近代歯科医療にみるクラシック

このように、オペラというクラシックは、単に「古典的な」ものという意味だけではなく、「最高峰の」舞台総合芸術なのです。そのオペラを概念的に、機能性、審美性、社会性、予防性、そして経済性に分解して捉え、私たちの本質的な歯科医療の概念と比較すると、クラシック歯科医療を理解しやすくなります。

1. Functionality：昨今の近代歯科医学は細分化した専門分野の学際的、集学的、あるいは包括的なアプローチにより、その質を高めることが最も調和した機能を呈するようになるのは、もはや定着した概念だと思われず。そして、今や歯科分野内でのアプローチ

から専門外である医科系他領域に達し、更には美容領域や精神領域へと広がりを見せています。かつては肉体と精神の一元論か二元論か、あるいは医科と歯科の一元論か二元論かといった二者択一の偏りのある考え方で構築されてきました。しかし、社会の成熟に伴い、専門領域を超えた学際的なコラボレーションに頼らなければ、質実ともに満足を与えられない時代に差しかかってきました。従って、医療においても、痛みを取り除いたり、元の状態に戻したりといった機能性の追求で十分であった時代から、**審美性、予防性、社会性、そして経済性をも一環として考慮しなければならない時代になってきました。**

2. Aesthetically : 過去20年間で、審美歯科の概念の普及は目を見張るものがあり、ここで詳説する必要はないと思います。ただ、審美歯科は美容との接点の前に精神医学の一分野として、あるいは社会医学の一分野としての需要のほうがかかるに大きいことを付け加えて理解しておく必要があります。

3. Prevention : 口腔二大疾患であるう蝕と歯周病は、細菌学的なアプローチの成果により、医学的には十分に予防が確立してきました。しかし、現行の医療制度の壁や国民の理解認識度、そして社会的な格差の存在等により、情報やしかるべき適切な予防法が広く国民に行きわたっているとは限りません。

もう一つ、咬合力に関してクレンチングやブラキシズムといった力のコントロールへの予防対策が必要なのは、言うまでもありません。しかし、歯科単独でのアプローチでなし得る内容ではなく、医科と連携した学際的アプローチによって初めてその予防に取りかか

ることが可能になります。同時に、免疫やアレルギーに対しても同様のアプローチが必要とされ、最終的には「食育」という我々が**最も専門とすべき異分野をも視野に入れていかなければならないこと**になります。

4. Sociality : 社会学としての医療のあり方やその尊厳はヒポクラテスの時代から議論され続けているので、ここでは触れません。ただ、「食育」は**予防性で捉えると同時にむしろ食料問題、食と医療の社会的な関連として取り扱うべき内容**かもしれません。現代の歯科医療、並びに医療が社会的インフラとして、果たしてこのままでよいのかという議論が、保険点数の見直しや混合診療の議論の前に成されなければなりません。

このような問題を、国家が成すべき問題と捉えてしまうと手も足も出ません。しかし、臨床医師や臨床歯科医師に与えられた権限の範疇でも、作曲家と同様に臨床家各人の哲学や思想、あるいは表現の自由は当然認められています。日々の臨床にこのような考え方を織り込む姿勢が大切になる世の中であり、その姿勢の集合体がいずれ国家の社会的インフラである制度を変えていきます。ある種の「空気」が醸成されてしまうと、たとえ政治家でもその流れを変えられないのかもしれませんが。それでも、一国民、一臨床家として「よい空気」の醸成に寄与するくらいはできるのではないのでしょうか。**クラシックから得られる臨床のヒントとして、「最も大切に育てていくべきものは何か」の答えが得られる**気がします。

5. Economically : 本当によいものを提供すれば、お金がかかるのは当たり前です。オペラ制作に2億円をかけ、チケット収入は4

The Choice 画期的なアイデアが生んだ高濃度水素水

2012年9月号で水素医学についてご紹介しましたが、当時、実はその担い手である水素水の製品紹介は見合わせていました。それは一般週刊誌の水素医学に関する特集において、現在、市販されている水素水の溶存水素濃度の偽装表示問題が指摘されていて、実際に水素濃度測定器を購入して溶存測定したところ、製造業者の明示する濃度とあまりにも大きな違いがあると明らかになったからです。

水素分子は最も小さい分子として知られていますが、ペットボトルのようなアルミ以外の容器ではすぐに抜け出てしまいます。ですから、水素水製造時の溶存濃度が表示されていても、実際に私たちが飲む時点ではその溶存濃度は保たれていません。仮にアルミ容器に入っている表示基準等の明解さに欠けていて、水素医学としての有効な濃度を保てていない製品が流通しているのが現状です。

もっとも、気体を液体に溶かして保存するには想像以上の技術が必要です。そのうえ、水素医学自体が新しい医学であることから、まだ溶存濃度の基準が設定されておらず、溶存濃度を曖昧にした水素水が横行していると思われます。

通常、気温にもよりますが、水素は1気圧では水に1.6ppmまで溶存しますが、気圧を上げることで更に濃度は上がります。水素医学の現状では、溶存濃度が高いほど臨床効果もよい結果が出ていますが、臨床的基準濃度が解明されるのも時間の問題かもしれません。

こうした水素水の現状において、独創的な製法の水素水に巡り会いました。炭酸飲料用のペットボトルに水を入れ、その中にもう一つの試験管様のカプセルを入れることで、自分で好きなお水を使って自在に高濃度の水素水を作ることができるという代物です。カプセルの中に、アルミニウムと水酸化



■ 『水素水7.0』 ppm
製造販売：エコモ・インターナショナル株式会社
問い合わせ先：TEL. 0948-26-4780
URL <http://shop.aquelajapan.com/>

カルシウムが入ったスティックに水を含ませた状態で入れるだけで、そのカプセルからペットボトル内に水素分子だけを放出していきます。当然、内圧は高まり4気圧を超える気圧もかかることとなりますので、5ppmを超える溶存水素濃度を実現しているようです。

数ある水素水や水素関連製品のなかで、水素医学に有効なものにいかにも巡り会うか、あるいは患者さんに提供できるか。それが水素医学の第一歩であるのが現状です。

千万円未満。これでは誰も作る人がいないと考えるのが「商人」であり、それでも表現の一環としてやり遂げるのが「芸術家」なのかもしれません。多くの芸術家はこのようなジレンマに押し流され、国の文化への理解が薄い、あるいは予算が少ないことを成し遂げられない理由として強調します。しかし、このように作曲家個人の努力でお金を作り出し、不足分を補填してまで思想を音楽で表現する芸術家もいるわけです。医療も同じで、**自分の意思を貫いた医療を展開するには設備投資や目に見えないお金がかかることも多々あります。**自由診療も、相場観があるかぎり期待

するほどの報酬は得難いものです。マーケティングという言葉が医療界にも導入され、株式会社による医療の営利的経営が議論される時代にもなりました。

●
歴史的にみても古今東西、**本質的なものには通底する普遍性があり、本質的なものを成し遂げる人には共通した苦労と努力が垣間見られる**ものです。臨床家として、「商人の道」に行くか「芸術家の道」に行くか二者択一で、二兎を追えないとしたらどちらを選びますか？ と迫っているのがグローバリゼーションなのかもしれません。